

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 早稲田大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(Ⅱ))

「日本語教育学」総合学習プログラムを通じた重層的・循環的人材育成事業

【プログラムの目的・養成する人材像】

国内外の日本語学習者・学習ニーズの多様化に対応した教育プログラムを構築し、人物交流・人材循環を起こして多様な日本語学習者に対応できる日本語教育者および実践的日本語運用能力を身に付けて幅広い分野で活躍する人材を養成する。

【構想の概要】

日本語教育学を専攻・副専攻とする学生に対して海外日本語教育実践の機会＝海外実習を提供するとともに、海外教育機関の日本語学習者に対して実践的日本語教育を提供することを通じて双方向の学生交流を促進する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 共同プログラム委員会の設置

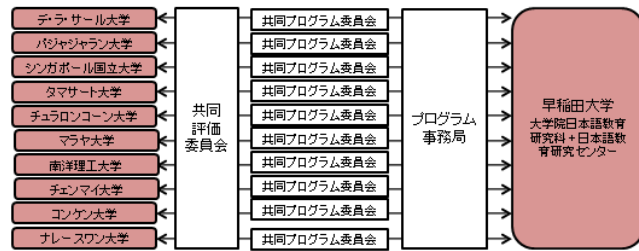
早稲田大学と各交流相手大学との間に「共同プログラム委員会」を設置し、カリキュラム、参加学生のケア、事業評価について協議した。

○ 共同評価委員会の設置

早稲田大学と全交流相手大学ならびに外部有識者が一同に会する「共同評価委員会」を設置し、各交流相手大学との取組を共有、評価することによって、プログラム内容や事業の改善を行なった。

○ 厳格な成績管理と単位相互認定

到達目標、成績評価方法等をシラバスを通じて事前に学生に公開するとともに、学生授業評価を取り入れた。また、学生交流を通じて取得する単位の相互認定を行なった。



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈バジャジャラン大学での交流風景〉



○ 本学学生の海外派遣実習

本学にて日本語教育学を主(副)専攻する学生が、各交流相手大学に派遣され、現地の日本語授業にて教壇実習やTA業務を行なった。また書道や茶道など日本文化を紹介する文化交流活動を行なった。

○ 交流相手大学学生の本学での受入実習

日本語を海外で学ぶ学生に、「日本語実践科目」を提供した。また茶道体験や小旅行等、日本文化の体験や日本人学生との交流活動を行なった。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

海外教育実践を組み込んだ大学院科目「日本語教育学実践研究(海外実習)」の受講生20名を、全学共通副専攻「日本語教育学研究」に設置する「海外実習」を履修する学部生・大学院生39名を、また、長期の大学院生交換留学プログラムで大学院生1名を、各交流相手大学にそれぞれに派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

各交流相手大学の日本語学習者を、本学の短期集中日本語プログラム(春、夏、秋コース)にて69名、長期の大学院生交換留学プログラムにて3名、それぞれ受け入れ、実践的日本語運用能力を養った。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	19名	41名	60名	79名	79名
学生の受入	0名	56名	72名	74名	74名

注)H24-H26は実績、H27以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 来日前のサポートおよび来日後・帰国前のオリエンテーションの実施

受入学生に対して、渡日準備の支援から来日後の生活・学習支援のためのオリエンテーションの開催、帰国前には取得単位の認定等に係る手続き等に関するオリエンテーションを開催した。

○ 交流相手大学の追加

各交流相手大学の日本語学科の規模等の事情により、本学からの学生派遣に関して、当初予定していた派遣人数を一部達成できなかった。本学学生の実習受入先の選択肢を広げるべく、平成26年度から交流相手大学4校を追加して事業を推進した。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開・成果の普及

○ ウェブサイトでの情報発信および国際的コンソーシアムでの成果公開

本構想参加大学の紹介、詳細なプログラム内容、参加した学生の体験レポート等をウェブサイトを通じて公開するとともに、早稲田大学が加盟する国際的コンソーシアムが開催する国際会議の場を通じて成果公開を図る。